

今年度の学校訪問指導を終えて

今年度より研修業務の教育センター移管に伴い、教育事務所指導主事の役割が学校訪問指導に特化されました。学校訪問指導においては、昨年度まで実施してきた「教科等指定の計画訪問」に加え、学校における教育指導の改善充実や教育研究の推進を支援することをねらいとする「市町担当者による計画訪問」を新たにスタートさせました。この訪問指導は、学力向上やふるさと教育、学校評価等の取組状況について学校から説明を受け、学校経営や教育研究の諸課題等について情報交換させていただく機会となりました。

また、出雲教育事務所では、「学校のニーズに基づく学校訪問」を基本的な考え方とし、これまで1回としていた教科等担当者による計画訪問（研究事業・研究指定校除く）について、年度途中に意向調査を実施し、学校からの要望の強かった複数回の訪問を可能としました。

よりきめ細かな学校支援体制づくりをめざし、9名の指導主事による今年度の学校訪問回数は、下表のとおり600回。昨年度の訪問回数の2倍近くに達しています。

しかし、新しい学校訪問制度はスタートしたばかりです。多くの課題もあり、各学校には多々ご迷惑をおかけしたと思います。お寄せいただきましたご意見をもとに、来年度の学校訪問指導について一層の改善充実を図っていききたいと思います。

学校訪問指導の実施にあたっては、管内全ての学校に大変お世話になりました。温かく迎えていただきましたことにお礼申し上げます。

訪問区分	回数	訪問人数
市町担当者による訪問	140	142
教科等担当者による訪問	158	182
特別支援教育に関する訪問	57	57
生徒指導に関する訪問	234	238
市郡教研部会研修会等	11	11
合計	600	630

〔来年度の課題まとめ（アンケートより）〕
ねらいをより明確にした学校訪問指導へ
 市町担当者訪問等の訪問意図の明確化
 広報等による年度初めの周知活動強化
すべての学校に複数回の訪問実現へ
 継続的な支援の希望（市町担当者訪問）
 気軽に相談できる多様な相談機会の確保
 （事務所での相談機会、電話相談等）
市町教育委員会との連携体制構築へ
 各市町教育委員会指導主事との連携
 教育委員会と訪問指導等の情報共有推進

「しまね子ども読書フェスティバルin出雲」が開催されました！

島根県では、「子ども読書県しまね」の実現に向けて、子どもの読書活動を幅広い県民運動として推進しています。例年、県内1か所であった「しまね子ども読書フェスティバル」を今年度は5か所（松江市、出雲市、邑南町、益田市、隠岐の島町）で開催することになりました。

出雲教育事務所管内では、出雲市健康増進課と共催し、「しまね子ども読書フェスティバルin出雲」～子どもと一緒に絵本を楽しもう～と題して11月28日（土）に出雲中央図書館を会場として、開催しました。

当日の様子



当日は出雲市内10校の小中学校の熱心な取組の様子をパネルにいただき、展示を行いました。

参加された皆さんから、工夫された展示やその実践内容のすばらしさに感嘆の声が上がっていました。



ご協力いただきました学校の皆様、本当にありがとうございました。

展示いただいた学校

今市小学校	北陽小学校	朝山小学校
田儀小学校	久多美小学校	檜山小学校
須佐小学校	大社小学校	
河南中学校	南中学校	

管内の教育

所報 第31号

- 主な内容
- 1 所長「点から線へ、そして面へ」
 - 2 生徒指導だより
 - 3 理科フォーラム
 - 4 学校訪問指導・しまね子ども読書フェスティバルin出雲

出雲教育事務所
平成22年3月



「点から線へ、そして面へ」

～出雲教育事務所来年度の構想～

所長 三島 修治

本年度も残りわずかとなりました。年度末という大きな節目の時期を迎え、各学校では教職員の皆様が一丸となって取り組んでおられることと思います。

さて、本年度は、県教育委員会の組織見直しにより、教育事務所としても新たな体制の中で、管内の各市町教育委員会と連携を図り、学校、家庭、地域への支援を行ってまいりました。本年度の教育事務所が重点として取り組んできたことについて振り返ってみます。

まず、各教育事務所の新たな取組として「市町村担当者による計画訪問」を導入しました。指導主事が担当する市町村を決めて、適宜学校訪問指導を行う体制にしました。担当する市町村を決めることで、事務所と各学校という線で結ばれた関係から、事務所と市町村の教育委員会や全体の学校との面の関係に広げることをめざしました。さらに、出雲教育事務所では、本年度、年度当初に希望をとるだけでなく、7月と12月にも学校の希望をとり、年度中途の学校のニーズにも積極的に応えてきました。来年度は、後で紹介する「派遣指導主事制度」を活かし、市町担当者による計画訪問と教科等担当者による計画訪問の方法・内容を一層工夫をしていきたいと考えています（学校訪問指導の詳細は本号p.4をご覧ください。）。また、出雲教育事務所では、本年度も各市町、関係機関の参加を得て、各分野において「管内ネットワーク会議」を開催しました。社会教育、生徒指導、人権・同和教育、教育支援センター、特別支援教育等の各会議では、喫緊の課題への対策及び今後の取組の方向性等を協議したり、情報交換をしたりしましたが、建設的な意見がたくさん出され、管内の5つの市町の体制づくり等の参考にいただきました。

以上、本年度の出雲教育事務所の取組を振り返ってみましたが、今後、各事業等を詳細に分析・検討し、来年度の教育事務所の業務の充実・改善につなげていきたいと考えています。

さて、県教育委員会では、来年度から新たに「派遣指導主事制度」を導入するとともに、「ふるまい向上プロジェクト」を強力に推進していくことにしました。

「派遣指導主事制度」は、希望する市町村に県から指導主事を派遣する制度です。その経費は、市は1/2を、町村は1/4をそれぞれ負担し、後は県が負担します。この派遣指導主事と教育事務所の指導主事とが連携して訪問指導等、学校への直接的な支援を行うことにしています。さらに、学校に近いところに指導主事が配置されることにより、学校支援が今まで以上にきめ細かく、より多くの学校へ広がっていくことを期待しています。

「ふるまい向上プロジェクト」については、「教育しまね」（2010年2月号）でも紹介しています。この事業における「ふるまい」とは、礼儀、作法、挨拶、しぐさ、モラル、ルール、躰、道徳、倫理観、生活行動、生活動作、思いやりの総称です。現状を見ると、それぞれの発達段階の子どもたちにも、また、青年、老人を含めた大人の間でも「ふるまい」が劣化しています。

こうした状況に対して、これまでも学校や家庭、地域がそれぞれの立場から様々な取組を展開してきました。今回「ふるまい向上プロジェクト」として取り組むに当たっては、これまでの取組を、「ふるまい」の視点からとらえ直すとともに、乳幼児とその養育・教育をする若い親を中心に働きかけていきます。もちろん、若い親や乳幼児の「ふるまい」向上には、全ての年代の者がそのふるまいを正していくことが大切です。その意識をすべての県民で共有し、県民運動として取り組んでいきます。

この取組を推進するため、教育委員会だけでなく、社会教育部門や福祉部門等が、それぞれの垣根を越えて一体となって乳幼児からの一貫した養育・教育・子育て支援を行っていきます。

こうした県教育委員会の取組に併せ、出雲教育事務所としても、所内での連携はもちろん、関係機関のネットワークの活用や市町教育委員会、派遣指導主事との連携を図り、各種の取組を点から線へ、そして面へと一層広げていくよう努力したいと思います。

生徒指導だより

- 生徒指導専任主事の駐在終了に当たって -

生徒指導から感じたこと・望むこと 指導主事（雲南市駐在） 三反田諭高

この3年間生徒指導にかかわり、各種研修会への参加や学校訪問、そして様々な体験を通じて、多くのことを学ばせてもらいました。その中で、感じたことを述べてみます。

1 不登校対応は「居場所」よりも「内容」

不登校の場合、教室に入れない、教育支援センターには行ける、家に閉じこもりがちなど、とかく児童生徒の居場所が気になります。しかし、より大事なことは、どこにしようとも、今その子が充実した時間を過ごしているか、目標に向かって努力しているか、ということではないかと思えます。学級・学校復帰ももちろん大切ですが、将来を見据えて今どんな力をつけるべきか、何ができるか、そういった見極めや対応を考え実践していくことが、不登校児童生徒を含めたすべての子ども一人一人を大切にすることだと思います。

2 「聴くこと」と「伝えること」

児童生徒理解などでよく使う言葉ですが、聴くことも伝えることも、主体は自分ではなく相手にあると思います。つまり、聴き手は話し手が「聴いてもらってよかった」「分かってもらえた」と感じられたら、聴けたことになり、同様に話し手は聴き手が「納得できた」「分かった」と思えたら、伝えられたことになるのではないのでしょうか。自分が聴いた、伝えたと一方的に思っても、相手がそう感じなかったとしたら、言い方や気持ちの込め方が足りないのかもしれないかもしれません。聴くことと伝えることは、コミュニケーションの基礎であり、人間同士が心を通わせる大切な行為です。言葉を通じて心が通い合うように、気持ちを込めた会話に心がけたいものです。

3 「子ども達のいいところ」が話題になる職場

生徒指導では、問題行動やいじめ・不登校への対応が重要課題であると同時に、自己指導能力の育成も大切であることはご承知のとおりです。解決すべき課題ばかりに目を向けるのではなく、伸びたところ、できたところ、守れたところなど、子ども達のいいところが話題に上がる職場であってほしいと思います。それは同時に、教職員にとっても居心地のいい職場になると思います。物事の見方を少し変えて、さわやかな笑顔と元気な声があふれる学校を目指していきたいと思えます。

生徒指導支援体制の構築にむけて 指導主事（奥出雲町駐在） 松田 武彦

駐在の指導主事として、間もなく3年目を終えることとなります。奥出雲町に駐在し、町教育委員会を中心とした生徒指導にかかわる学校支援体制の確立と学校への支援に携わってきました。

「学校支援体制構築の年次の見直し」に沿って、以下の取組を進めてきました。

実態調査・分析

町独自の様式により、学期ごとに長期欠席者への対応状況を把握し、町全体の傾向を各学校へ連絡。教育長と校長会代表の4名の校長からなる「奥出雲町生徒指導サポート会議」を中心に、年度を通しての実態を分析し、町の重点目標を設定するとともに、対応のための取組を推進。

関係機関との連携・調整

校内ケース検討会出席。ケースに応じた、福祉事務所など町内の各機関、児童相談所など町外の関係機関との連携。

生徒指導推進のための啓発

「奥出雲町の教育を語る会」（全体会、校区别会）の開催。今年度は、「学校地域支援本部など地域の教育力を生かした異校種連携の推進」について、京都市立洛西中学校の口中治久校長による講演会の開催。中学校区別の「語る会」の開催。それぞれの実態を考慮し、具体的な取組についての情報共有と行動連携の推進。

緊急支援への対応

対応のためのマニュアルを作成、各学校への配布。町教育委員会の対応体制の充実。

以上の諸策により、当初のねらいに沿って、奥出雲町における生徒指導支援体制の推進・充実ができたのではないかと考えています。

しかしながら、ネットにかかわるトラブルの発生、人間関係のトラブルをきっかけとした不登校、個別支援の必要な子どもの増加など、子どもたちをとりまく生徒指導にかかわる環境は、より複雑化しています。そのための対応として、義務教育9年間はもちろん、保・幼・小・中・高、そして家庭との連携がより重要になってきています。

奥出雲町では、思春期までを見直し、発達課題への対応と家庭・学校それぞれの果たす役割について「奥出雲の子のすこやかな成長のために」というリーフレットを作成し、幼・小・中の保護者、公民館など関係機関に配布しました。（奥出雲町のHPからダウンロードできます。）

このリーフレットを一つの目安として、家庭、学校、地域が連携し、より良い子育て、心身共に健やかな子どもたちの成長を支援する取組が進むことを願っています。



理科フォーラム

- 科学の不思議を体験しよう -



島根県教育委員会は、平成21年11月14日(土)、『理科フォーラム』を開催しました。

この事業は学力向上プロジェクト事業の一環として初めて行われるものです。科学ショーや科学工作等を体験することを通して、科学に対する子どもたちの興味関心を高め、理科学習への意欲を高めることが目的です。

会場となったしまね海洋館アクアスに、2つの科学ショーと11の体験コーナーを設けて開催したところ、小・中学生を中心として延べ240人の参加がありました。子どもたちは現象の不思議さを体験するとともに解説を聞きながら科学の楽しさを感じ取ることができたことと思います。



内容

【科学ショー】
生物の発光実験
空気のを
楽しもう

【体験コーナー】
化石レプリカを
作ろう
液状化現象を
見よう
簡単モーターを
作ろう
紫キャップで
水溶液を調べよう
超低温の世界を
見よう
光の屈折の
不思議を見よう



体験できることが大変すばらしく、大切な思いや考えの基になると思いました。楽しかったようです。学校で勉強している電磁石のことを、ここの先生に聞くこともできました。

保護者の声

これから授業で勉強するので、みんなに見せることができるととっても喜んでいました。理科が大好きになれそうです。

とてもいい会でした。ショーがおもしろかったです。またやってほしいです。作るコーナーが楽しかったです。次回もやってみたいです。

子どもたちの声

実験がおもしろかったです。みんなよかったです。カブトムシ(のぼり虫)、大事に育てます。

担当者より

感想から、「理科フォーラム」は科学への子どもたちの興味関心を高めるよい機会となったと思います。参加している子どもたちの姿を見てみると、自然の事物・現象を目の前で見たり、五感を刺激したりする体験の大切さを改めて認識することができました。学校におかれましても、子どもたちの知的好奇心を広げる科学的な体験がますます充実されていくことを願っています。

この事業は島根県理科教育研究会の賛同を得て、市郡教研理科部会（浜田、益田、鹿足）の先生方からも参加、協力をいただきました。おかげさまで、子どもたちに様々な体験の場を提供することができました。また、各学校には児童生徒の参加についてご推奨いただき、本当にありがとうございました。

県教育委員会では、来年度も理科フォーラムを継続実施するとともに、教科指導力向上セミナー 小学校理科の開催を予定しています。学校では、体験を通して形づくられる『実感を伴った理解』が、理科指導の中で一層図られていきますようお願いいたします。